



楽しく子育て!

～香川県立図書館 子育て支援コーナー通信～

第157号

発行日

2020年9月19日

毎月19日は、「かがわ育児の日」

★司書のオススメ本～9月の新着図書から～

『非認知能力が育つ3～6歳児のあそび図鑑』

原坂 一郎／監修, モチコ／イラスト 池田書店／刊 2020.7

非認知能力とは、数値化されない能力のことで、「自分の感情をコントロールする力」、「人とうまくかかわる力」、「苦難を乗り越える力」など、よりよい人生を生きるのに必要な力のことです。紹介されているあそびは、家庭ですぐできるもので、遊びに使う道具も身近にあるもので作れるものばかりです。

子どもが将来社会に上手に関わってゆけるよう育てたいという方におススメです。



『しあわせカメラ 子どもの自己肯定感が育つ魔法の撮影レシピ』

パパカメラ／写真・文 自由国民社／刊 2020.8

本書によると、旅先やイベントで撮った家族の「しあわせ写真」をリビングなどに飾っておくと、子どもがそれを眺めることで自己肯定感が高まるそうです。

写真撮影は苦手という方も、掲載されている子どもを楽しませる簡単なアイデアを利用して撮影すれば、素敵な写真が出来上がりますよ。

<9月の新着図書～ほかにもこんな図書が入りました～> () は棚番号と内容です。

(支援1-4 産後の復調)

・『ママにいいこと大全 育児のうつヌケ95の習慣』
主婦の友社／編集・発行

(支援2-1 お掃除・家事)

・『水谷妙子の片づく家 余計なことは何ひとつしていません。』
水谷 妙子／著 主婦と生活社／刊

(支援2-1 子ども服)

・『挫折しない!子ども服レッスンBOOK』
岡田 桂子／著 日本ヴォーグ社／刊

(支援2-3 子どもの生活リズム)

・『子どもにいいこと大全 自律神経をととのえる62の習慣』
主婦の友社／編集・発行

(支援3-1 親子関係)

・『「心が強い子」は母親で決まる!』
和田 秀樹／著 三笠書房／刊

(支援3-3 子育てヒント)

・『こわい顔じゃ伝わらないわよ 尾木ママの子育てアドバイス』
尾木 直樹／著 新日本出版社／刊

(支援4-2 子どもと遊ぼう)

・『キッチンサイエンスラボ 親子で楽しむ52の科学体験』
Liz Lee Heinecke／著 オライリー・ジャパン／刊

(支援4-5 学力)

・『親子で取り組む作文教室』
山口 拓朗／著 日本能率協会マネジメントセンター／刊

(支援5-1 特別支援教育)

・『不器用な子どもがしあわせになる育て方』
宮口 幸治／著 かんき出版／刊

(支援5-2 モンテッソーリ教育)

・『わが家を最高の「モンテッソーリ園」にする61のメソッド』
キアラ・ピローディ／著 すばる舎／刊

●県立図書館の子育て支援コーナーの図書は、県内のお近くの市町図書館等から取り寄せができます。詳しくはお近くの公共図書館へご相談ください。

季節のお役立ち本 ～お出かけが楽しくなる！お弁当の本～

9月になり、だいぶ過ごしやすいになりましたね。コロナウイルスの感染の心配や、子どもの夏休みの短縮もあって、夏にはあまりお出かけできなかったという方も、自然の中で、秋の気配を感じてみてはいかがでしょうか。

そこで、今回は、現在開催中の企画展示「家族で秋を楽しく過ごす本」の中から、お出かけが楽しくなるお弁当の本を紹介します。

企画展示は11月29日（日）までです。ぜひご利用ください。



『忙しいママでも作れる子どもが喜ぶお弁当』

阪下 千恵／著, まちとこ／編 日東書院本社／刊 2019.3

本書には、おかずがシンプルなお弁当でも子どもが喜ぶ工夫やつめ方のコツが満載です。

「家族でお弁当を持って出かけるのは、楽しいけど、つついお弁当作りを頑張り過ぎて、おでかけ前に疲れを感じてしまう」というお母さんにおススメの一冊です。

●企画展示「家族で秋を楽しく過ごす本」には、他にこんなお弁当の本があります。

・『満腹！お楽しみ弁当 ひとりでもみんなでも、ふたを開けてびっくり！サプライズ弁当』

大庭英子／著 文化学園文化出版局／刊

・『現役ママとっておき！おとな弁当&こども弁当 同じ食材で作れるおかずレシピ満載！』

〔川越子育てネットワーク〕／〔レシピ協力〕 辰巳出版／刊

・『顔弁 フタを開けたら、元気になる, SMILE FOR ME』たいらあやの／〔著〕 オーバーラップ／刊

・『青空ピクニック弁当 晴れたらお弁当を持って出かけよう, まいにちお弁当日和』

長谷川りえ／〔レシピ考案・調理〕 イカロス出版／刊



<子育て支援担当より>

二期が始まり、早いもので一ヶ月が経とうとしています。時々、小学生の息子は、「体がだるくて、学校に歩いて行くのが辛い。」と言います。これまでは、毎朝7時に家を出て、1.5キロの道のりを歩いて行っていたのですが、やはり今年は疲れがたまってしまうのでしょうか。

車で小学校へ送って行く途中で、歩いている小学生を見かけたので「早い時間なのに、もう歩いている子がいるね。」と言うと、「僕だっていつも歩いている。」という言葉が返ってきました。「そうだった、いつもは、息子も頑張っているんだな。」と今更ながら、気づかされました。